

# 成田山御本尊舊蹟地不動塚きゅう

成田山は、天慶三年（九四〇）寛朝大僧正が御本尊不動明王を捧持し、難波（大阪府）の津より海路を東上、横芝光町尾垂ヶ浜に上陸（御本尊上陸聖地）され、陸路を進み公津が原（成田市西南部）において平将門の乱を鎮めるため不動護摩供を修し、平定後この地に堂宇を建立したと御縁起に記され、この不動塚周辺が御本尊不動明王を最初に奉祀した場所と伝えられ、成田山の舊蹟地といわれる所以であります。新勝寺が明暦元年（一六五五）に新本堂（現薬師堂）建立の折り、御本尊入仏落慶供養の行列が行われ、この古事に倣い、吉例行事として舊蹟地において法楽が執り行われます。明治十七年（一八八四）十二月建立の「成田山舊蹟不動塚之碑」があり、不動塚内は、宝座を表す蓮台が刻まれた平安舊蹟を示す御本尊御座石が残されています。これを顕彰するため、不動尊像が昭和初年に奉安され、台座に「元不動再興」とあり、東京、中国上海の奉納者が刻まれ、信仰圏の広さをうかがわせるものです。平成三十年（二〇一八）成田山開基一〇八〇年祭記念事業として不動塚の整備が行われ、この地は、地元並木町の方々により祀守され、琴平宮様（金毘羅大権現）、二十三夜様、十九夜様（子育観音）が併祀され鎮守の杜となっております。

平成二十九年五月吉日

大本山成田山新勝寺